

木造訶梨帝母（鬼子母神）像

これは12世紀の木彫像で、左手で赤ん坊を、右手でザクロを抱いています。もともとヒンドゥー教の神であり、日本では鬼子母神の名前で知られている訶梨帝母を表しています。訶梨帝母は、元々は子どもを食らうヒンドゥー教の悪魔でした。仏教の神になった後、訶梨帝母は日本の母性や子宝の神になり、鬼子母神としても知られています。カツラ材の一木から彫られたこの訶梨帝母の像は、もともと、毛越寺の子院である大乘院に納められていました。